

1年間の留学を終えて 国際交流長期留学体験記

03年度長期交換留学生のうち、檀国大学(韓国)、上海大学(中国)、リュミエール・リヨン第2大学(フランス)、ワイカト大学(ニュージーランド)に留学した学生の皆さんに、それぞれ1年間の思い出を綴ってもらった。語学の習得ばかりでなく、現地の伝統、文化に触れ、さまざまな場面で人々と交流し、異国から日本を見つめ直した6人の体験記だ。

日本を見つめ直すきっかけに

リュミエール・リヨン第2大学
石川みどり(文4)



▲昨夏、クラスメートの家で(左から3人目が石川さん)

リヨンに1年間留学し、前半は語学、後半は文学を勉強しました。

文化も習慣もまったく違うフランスでの生活は毎日が驚きの連続で、日仏、日欧間のさまざまな違いを感じました。たとえばストライキ。ここではストが多くてかなり参りましたが、フランス人は個人の権利を重視するが、日本はそれよりも集団を重視する、という考えを目の当たりにしました。また欧

米人との討論の授業では、何でも自国と関連付けて発言する彼らに対し、自分は日本のことを知らなすぎると痛感したこともあります。

また日本を客観的に見る事が出来たのも貴重な体験です。外国人の友だちとの会話は、古臭いと思っていた日本の伝統を見つめ直す良いきっかけとなりました。ここでは思っていたより多くの方が日本に興味を持ち、日本語を学んでいることを知り、とてもうれしかったです。留学生活は辛いこともありましたが、今思えば、すべてが貴重で良い体験でした。留学中に出来た友人たちもかけがえのない存在です。この1年で得たものを、これからの生活や勉強に生かしていきたいと思います。

多種多様な人々が一緒に学ぶ

ワイカト大学
五十嵐 かな子(文4)



▲昨夏、市内のバブでフラットメイトと一緒に
(右から3人目が五十嵐さん)

昨年、ワイカト大学に留学しました。ワイカトは都心から車で2時間ほどのところで、自然が多いのどかな町です。

ここの大学の雰囲気は日本とまったく違い、さまざまな民族が年齢を問わず学んでいました。英語はもちろん、現地ならではのことを学びたかったので、ニュージーランドの歴史と文化の授業を取りました。中でも興味深かったことは、講義で20年前の映像を見た時、当時を経験したクラスメートからその生の話を聞いたことです。

生活面では、大学の寮生活が印象に残っています。フラットメイトとそれぞれの文化について話したり、一緒に料理を作ったりしました。日本に興味を持ってくれたのがとてもうれしかったです。

違う国で違う民族の人々と交流を深めることは、未知の世界に出会ったり、あらためて

日本の歴史や文化を考えることが出来る良い機会だと思います。留学で学んだことを生かして、視野を広く持って生活していきたいです。

目が合うと笑顔で「Hello!」

ワイカト大学
高山 幸子(文4)



▲去年10月、寮の仲間と開いたさよならパーティーで
(右端が高山さん)

私は、長期交換留学生として昨年2月から11月までの10カ月間をニュージーランドのハミルトン市で過ごしました。ハミルトンは人口12万ほどで、市内には美しいワイカト川が流れている穏やかな町でした。

大学の授業では言語学やオーラルプレゼンテーションなどを学び、積極的に授業に参加する学生たちから刺激を受けました。ホームステイをしてニュージーランドの文化に触れ、大学寮での暮らしでは、現地の学生や

留学生と触れ合い、充実した日々を過ごしました。留学中に印象に残ったことは、道を歩いている時、知らない人でも目が合うとにっこりとしてくれ、「Hello!」と声をかけてくれたことです。時間の流れもゆっくりと感じました。留学で学んだことは自分の思いをはっきりと人に伝える大切さです。いろいろな人との出会いによって、視野が広がりました。現在、就職活動中ですが、この経験を生かした仕事が出来ればと思っています。

会話の中で「日本」広める

リュミエール・リヨン第2大学
若杉 早苗(経済4)



▲夏休みにたずねたシュノンソー城の前で(右から2人目が
若杉さん)

「どの人がフランス人なのか分からない」。それほど街ではいろいろな言語が飛び交い、人種の多さに驚いた。だからこそ、それぞれの文化の違いを発見することが出来た。

あるとき、語学学校の授業でほおにキスする(音だけが)挨拶の仕方が話題になった。フランスやアラブ圏の人たちなどは、少し違いはあるが同じ様式であった。そこで「日本は頭を下げる」と説明すると、「それだけ? おかしい!」と言われる始末。私にはフランス式挨拶は恥ずかしく

もあり、変でもあったから「そっちこそおかしい!」と思ってしまう。しかしこのようなやり取りの中で、あまり日本のことが知られていないと気づき、もっと知ってほしいと思うようになった。

日本人は静かだと言われるが、日本に対する認識を深めてもらいたいという気持ちが会話の中で主張していく力となり、それが会話することへの楽しさとなった。さまざまな人に出会うことが出来て、面白い1年だった。

韓国語漬けて日本語忘れた!?

檀国大学
原 梨沙(経済4)

昨年、韓国の檀国大学経済学部商経学科に留学しました。日本に戻ってきて就職活動に忙しい毎日を送っていますが、就職試験では、帰国生や在日の方に間違われることもたびたび。どうも私の日本語が怪しいようなのですが、裏を返せば、それだけ



▲韓服を着せてもらって、ホームステイ先のお母さんと一緒の原さん(左)

私が日本語を忘れるぐらい「韓国語漬け」の毎日を過ごし、韓国語が上達したということなのでしょうか。

昨年世界を震撼させた「SARS」は、日本では「サーズ」と呼んでいたそうですが、韓国では「サス」でした。そのほかにも話がかみ合わず「えっ？」ということがしょっちゅうです。現在、日本に順応すべくリハビリ中です。

ホストファミリーや大学の先生、友人にも恵まれ、とても充実した留学生生活を過ごせたことに感謝しています。

留学にあこがれている後輩の皆さん、恐れずにぜひ一步を踏み出してみてください。そこには想像もできないほどの素敵な出会いが待っていますよ！

中国語のジョークも飛び出す

上海大学

垣花 陽平(法4)



▲昨年6月、上海の香港料理店で(左端が垣花くん)

中国という国、何よりも中国語で会話をする魅力に引かれ、1年間の留学を決意しました。

授業初日に、突然わけの分からない中国語で話しかけられ、泣きそうになったのを今でもよく覚えています。けれども毎日辞書を引き、中国人と交流をし、数カ月たつと中国語で映画を見て泣き、中国語でジョークを言ったり出来るようになりました。

日本との文化の違いに触れるのも魅力のひとつで、学食で相席なんて当たり前。そのとき勇気を出して一言「ニーハオ」と声をかければ、もうお友だち。生活の中の一つひとつが発見と驚きの連続でした。また物価の安さも魅力の一つでしょう。一食は100円くらいですみます。

誕生日には、中国人の友だちが遊園地で祝ってくれました。私はこの一年、だれにも負けなぐらい価値のある、そして心から笑える留学生活を送ることが出来ました。

【ニュース専修5月号12面】